

萬葉集古藏

七下天

萬葉集古義

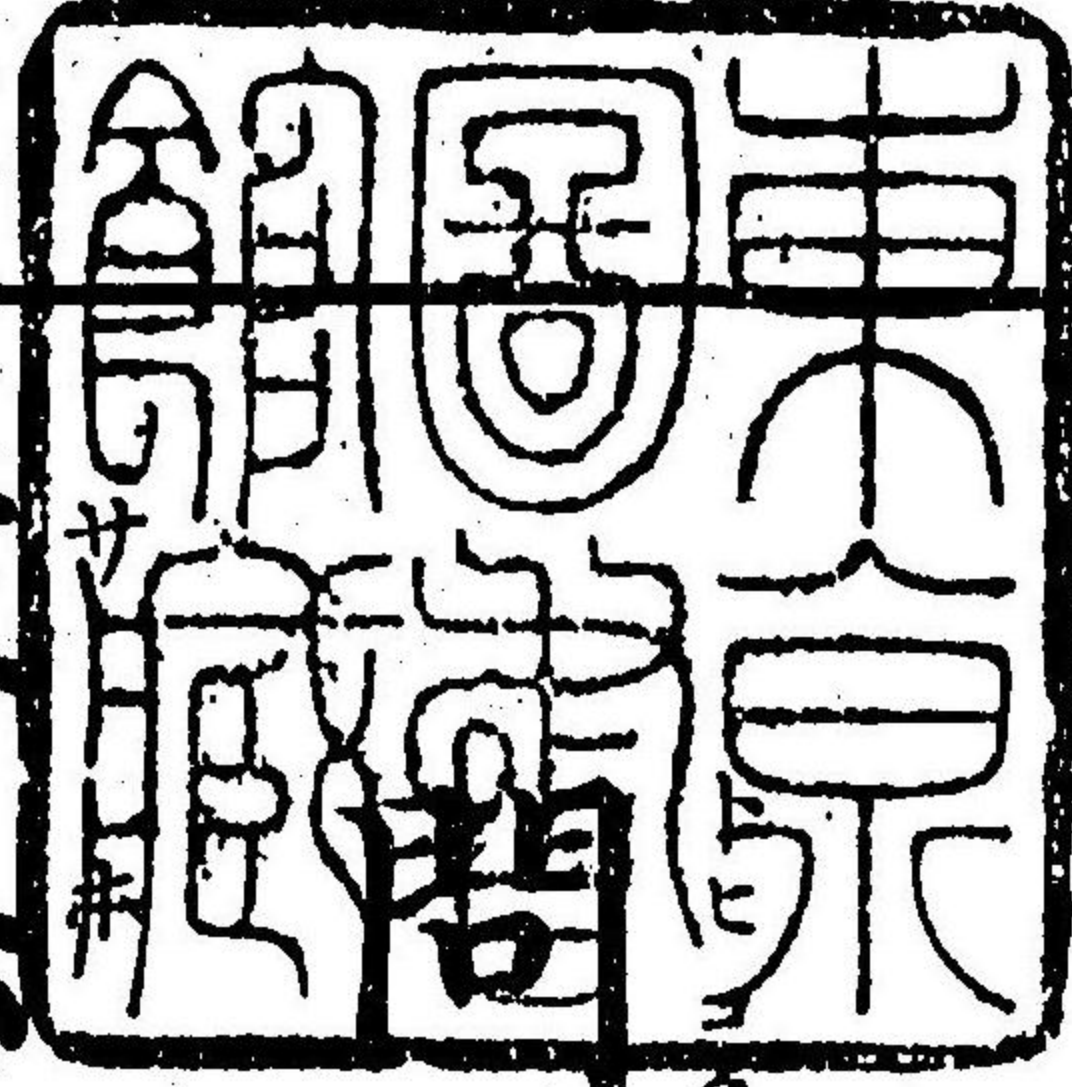
七下天

圖書			
九	千	一	明
亥	架	六	曆
海	号	函	曆

明治十九年九月十一日内務省交付シテ

萬葉集古義七卷之下

土佐國 藤原雅澄撰



答

佐保河爾鳴成智鳥何師鴨川

原乎思努比益河上

歌意かくれしるところな

一 千鳥小問あけしるあり

人社者。意保爾毛言目。我幾許。

師奴布川原乎。標結勿謹。

オホニモイハメ 意保爾毛言目ハ。おほよそふも云めなり。意保ハ。集中

アガコダ 小甚多き詞なり。我幾許ハ。我ハ千鳥の我小テ。自ら

シヌフカハラ そこむくと云意なり。師奴布川原ハ。戀慕ふ河原と

然るを後ハ 云意なり。さて此河原ハ。即佐保河なり。然るを後ハ。こ

原といふみちのくの地名と心得てよみ 原といふみちのくの地名と心得てよみ。歌意ハ。

歌ふとあるハ。かゝをらいつきことなり 歌ふとあるハ。かゝをらいつきことなり。歌意ハ。よくやせ人こそハ。おほよそのものふもいえめ。われ

ハそこむく戀慕ふ河原なるを。努々其河原小標結こ
となのれ。吾のく深く慕ふ河原なれば。吾領居むとめ
ふかあらむ縦

おけよとなり

右二首詠鳥

神樂浪之。思我津乃白水郎者。

吾無二。潛者莫爲浪雖不立。

思我津ハ志賀の大津なり○歌意ハ志賀津の海人の
かづきまゐるわざのいと面白ければ我のく見るとき
あらでハことひ浪ハ荒く立ずとむ。

のづきハまゐることなわれとなり

大船爾オホ梶ブチ之母ニ有奈牟カダシ君無爾モ。
アラナム キミナシニ

潜カヅキ為セメ八方ヤ波モ雖ナシ不起タ。
ズトモ

之母シモハ數ある物の中を取出ていふ辭なり上小あび
ふび出つ○歌意ハいので大船小楫もなあれの

さらば沖中小出てよき貝玉をのづき出来て心ごら
ひふみせ奉らむものを大船小楫ふければこそあれ
のく君の御爲をのみ思奉る吾あればことひ浪よ
だあざとるときふもせよ君がおをさげハかづきハ
せとと

となり

右二首詠白水郎。
ミキノフタウタハヨル ア マ ラ

臨時
トキツケテヨメル

これハ時ふつけてよめ
る歌なれば部類定らば

ツキクサニ。コロモソソメル。キミガタメ。マダラノ
月草爾衣曾染流。君之爲綠色

コロモ。スラム。トモヒテ
衣將摺跡念而。

染流ハソメルとよみて。染有なり。染とるといむむの
如し。俗ハソムルをソメル。○綠色衣ハマダラノコロ
モとよむべきの。緑ハ玉篇小五絲備也。字彙小繪繒と
あり。此次下小不時班衣服欲香。又丁卅今造班衣服面就

ふとあり。又十二十七小紫綠色之護花八香爾云々と
あるをも。マダラノカヅラと訓べきの。十卷四十小
紅之綠色爾所見秋山可聞とあり。○歌意ハ君の爲小
鴨頭草もて。綠色衣と摺むとおもひて。草原小分入
小ゆくりなく我衣を。
色小そみとるとなり

ハルカシミ。井ノ一ヨ。タバニ。ミチハ。アレド。キミ
春霞井上從直爾道者雖有君

ニ。アハム。ト。タ。モトホリク。モ
爾將相登他回來毛。

春霞ハ枕詞なり霞の居ると云意小井井ノつゞけさり
 ○井上ハ契沖地名なり大和小在聖武天皇の皇女小
 て光仁天皇の后となり給へる井上内親王もこの井
 上を名小おひ給へるなるべしと云り又河内小も井
 上と云地あり和名抄小河内國志紀郡井於井ノ倍乃とあ
 り今今の歌ハいづれ今 ○歌意ハ井上よりゆく直道ハあ
 れども君小行あをむとてとさく道をま
 たりてさてもからうりてくるよとなり

道邊之草深由利乃花咲爾ミチノベノクサフカユリノハナエミニエマシ

之柄ニ妻常可云也シカラニツマトイフベシヤ

草深由利ハ草深き地小さける百合を云十一丁小路
 邊草深百合之後云妹命我知とありいづれもクサフ
 カユリと訓べし畧解小クサフケユケ ○花咲ハ十八三
 丁小夏野能佐由利能波柰能花咲爾爾布夫爾惠美天
 云々とあり花のさくを急むと云のゆ急なり○咲之エマシ
 柄ニハ咲賜いしものなるをの意なり四卷聖武天皇
 大御歌小道相而咲之柄爾零雪乃消者消香二戀云吾
 妹又同卷小青山乎横斂雲之灼然吾共咲爲而人二所シラ

知名ユナふどあり○妻ツメ常可ツラビヤ云也ハ。本居氏云ベシ。訓ベシ也ハ。つマトイフ
ごふ添ゾる字ありと云るハ。相咲イ故コ小コ我心ココロを許
せることあるけれバ。即妻ツメといふべしと云意イ小コ見ミ
るなるべけれ也ヤハ也ヤ波ハの也ヤなり○歌意イハ。唯一目相
見ミ時トキ百合ハクの花ハナのさきサキる急イまいの如ニく。うるを
く相ア互イみしのみ比ヒ事コトなるを。即我妻ツメと云べしやハ。女
の下心シメをバ知チべのらねバ。唯タりハハ小咲コのみと見
て。我ワ小コ心ココロを許ユせりとして。妻ツメとハもの
むべきことふあらざるをやとなり

默モ然ダ不アラジ有ト跡コト事ノ之ナ名ガ種サニ爾イフコト云言

乎ヲ聞キ知シ良ラ久ク波ハ少カラ可ク者ソ有アリ來ケル

默モ然ダ不アラジ有ト跡コト契チ冲チウ古コ点テン小コハナホ。アラジトとよめるよ
し云れど。猶モダとよむべしと云り○事コト之ノ名ナ種タガサニ爾ニハ。
事コトのなぐさめ小コと云意イなり。四シ卷クワン三サン十ジュウ小コ吾耳ワキミ曾ソノ君キミ爾ニ
者ハ戀コイ流ル吾背ワカセ子コ之ノ戀コイ云ク事コト波ハ言ハフ乃ナラバ名ナ具グ左サ曾ソノとあり○少
可コ者モノ有アリ來ケル者モノ字ジ一イチ本ホン。或人アルヒトの考カウ小コ苛カ曾ソノ有アリ來ケルの誤アヤマ小コて。カ
ラクソ。アリケルなるべし。十一ジュウイチ廿ニ一イチの歌合ウタガヒ見ミべしと
云り。と中山ナカヤマ嚴水エンスイいへり。是コトよろし。十一ジュウイチ小コ大夫ダイフ登ト云々
小可コ者在アリ來ケルとある。小可コ者在アリ來ケルハ。小コハ不フ者モノハ曾ソノの誤アヤマ

なるべし。不可ハ義を得てカラクと訓べし。行不類面不
樂不明不穢不得ふどの類と思ふべし。岡部氏ハ小可
ハ苛の誤なるべしといへり。さることあり。考合べし。本居氏説小ハ少可ハ奇の誤。アヤシカ
リケリなるべしと云へれど。猶前の説。小志
あ○歌意ハ心より思ふ小ハあらざれども。あご小黙
止してハあらどとて。あご我をなぐさめむぶさめの
みふりをへふいふ言をそれと知て。又口くせふいふ
よと云ことを聞知る事ハ。からくくるくそありけ
る。あまくの事。あらばりハへふいふ言をも實意と思
ひて。あむく心をなぐさむ
る事ハあるべし。さすととなり

佐伯山サツキヤマ。于花ウノハナ以之モチシ。哀我カナシキガ子テ。鴛取ヲシトリ
而者レバ花散ハナハ鞞チルトモ

佐伯山ハ契沖安藝國小佐伯郡あり。そこなど小ある
山の名小やと云り。又或説小伯ハ附字の草書を誤れ
る。小て。佐附山サツキなるべきのと云り。さらばあご五月頃
の山と云とまべし。十卷サツキヤマウノハナツクヨホト
ギスキケドモアカズマタナカスカモ鳥雖聞不飽又鳴鴨又サツキヤマハチタネナニホトトギスカ名フ
トキニアヘルキカモ時爾逢有公鴨ふどあり。古今集小も。五月山梢を高み

ふとゞぎまなく音空なるこいもするのな。おどある
類なり。これらの例を合思ふ。小。或説志のるべし。○哀
我ハ。カナシキガ。とよみて。愛しく思ふ女。のといふ。の
ごとし。契沖。のあしき。へりつく。み愛をる心なり。十
四九。小。爾。保。杼。里。能。可。豆。思。加。和。世。乎。爾。倍。須。登。毛。曾。能
可。奈。之。伎。乎。刀。爾。多。氏。米。也。母。古。今。集。小。露。を。の。な。し。ぶ
と云い。つなで。か。あ。し。も。と。よ。め。る。こ。れ。な。り。伊。勢。物。語
ふ。い。と。つ。こ。ふ。さ。へ。あ。り。け。れ。ば。い。と。か。な。し。り。し。ま
ひ。け。り。と。も。云。り。と。云。る。の。如。し。○子。鴛。取。而。者。ハ。契。沖。
子。ハ。手。の。字。と。あ。や。ま。れ。る。な。る。べ。し。テ。ヲ。シ。ト。リ。テ。バ。

とよむべしと云り。愛み思ふ人の手をとるハ。集中。小。
君之手取者。將。縁。言。毳。又。草。取。可。禰。手。妹。手。乎。取。又。妹。手
取。而。引。與。治。採。手。折。な。ど。多。く。よ。め。る。の。如。し。○歌。意。ハ。
卵。花。を。持。て。あ。り。し。愛。し。き。その。女。の。手。を。と。り。し。
ら。ば。よ。し。や。花。ハ。ち。り。ぬ。と。も。
それ。を。と。べ。い。と。を。と。な。り。

トキジクニマダラノコロモ。キ。ホシキカ。シマノハリハラトキニ
不時。班。衣。服。欲。香。島。針。原。時。二

アラ子ドモ
不有鞞。

不時ハト。キ。ジ。ク。ニ。と。よ。む。べ。し。又。ト。キ。ナ。ラ。ズ。と。よ。み
 て。も。よ。し。○マダラヨモ班衣ハ。いろく。小。そ。め。分。さ。る。衣。なり。十四
 四。小。萬。太。良。夫。須。麻。と。も。よ。め。り。○シマノリ島。針。原。服。針。原。と。あ
 丁。小。萬。太。良。夫。須。麻。と。も。よ。め。り。○シマノリ島。針。原。服。針。原。と。あ
 元。曆。木。小。か。く。有。小。從。つ。袖。中。抄。ふ。も。此。歌。を。引。て。島。の
 針。原。と。き。小。ハ。あ。島。ハ。大。和。國。高。市。郡。小。あ。る。地。名。なり。
 十。卷。丁。廿。一。小。島。之。榛。原。秋。不。立。友。と。あ。る。と。同。所。なり。○
 歌。意。ハ。大。和。の。島。の。榛。原。の。榛。を。と。り。て。衣。を。染。べ。き。時
 節。小。ハ。あ。ら。ざ。れ。ど。も。止。こ。と。を。得。ぬ。時。ふ。ら。び。小。斑。衣
 を。染。て。著。ま。は。し。く。思。ふ。哉。と。な。り。此。歌。ハ。ま
 ぶ。ら。ら。こ。の。き。女。と。あ。と。へ。る。な。る。べ。し。

ヤマモリノサトヘカヨシヤマニチソシゲクナリケル
 山守之里邊通山道曾茂成來

ワスレケラシモ
 忘來下

歌。意。ハ。山。守。の。久。し。く。里。へ。通。ひ。こ。ぬ。る。と。小。通。ひ。か。れ
 て。踏。の。ら。し。く。山。徑。の。草。木。の。茂。く。生。塞。れ。る。ハ。こ。れ。を
 忘。れ。ふ。け。る。故。な。ら。し。さ。て。も。戀。し。く。思。え。る。よ。と。云
 な。り。山。守。ハ。女。の。も。と。小。通。ひ。な。れ。し。男。を。ふ。と。へ。る
 あり
 べし

足病之山海石榴開八岑越鹿

待君之伊波比孀可聞

本句ハ十九十一小も奥山オウヤマ之八峯ヤツヲ乃海石榴ウメノキとよみて、
つばきハ峯上ノ小さくよし。おやくよこなれさる。あゆ
ゑ小八岑ヤツヲの形容を云るなり。○八岑ヤツヲハ彌津岑ヤツヲ小て疊
れる峯ノと云十九十一小足引アシヒキ之八峯ヤツヲ之鴉ノともよめり。又
十五十五八峯ヤツヲ布美越フミエふどもよみより。六帖六帖木部木部さくろ小
を山ノさくろさくみねこし小とて載載さりいのでさを
ありふハ訓誤訓誤けむ海石榴ウメノキをツバキツバキと訓ることハ古

書小證いと多きをや ○歌意第三句までハ序小て狩人の鹿と

りかあひぬらひて待如く小大切大切小をるいはひ妻の
なと云意なり。と本居氏云り。但しシマシマママチチキキとよ
シマシマツツキキとよみてよけむ。又岡部氏ハ鹿待ハ狩人
と云て其男の遠路通ひくるいさづき小譬ハ其君の
いつきあしづ
く妻のふと人
の上をよめる
ありといへり

曉跡夜鳥雖鳴此山上之木末

之於者未静

夜烏雖鳴ハ契沖の遊仙窟小誰知可憎病鵲夜半驚人
ヨカラスナケド
 薄媚狂雞三更唱曉と云るを引るの如し○山上ハ舊
ウケマ
 訓小ヲカとある小よるべし。畧解小。子とよみしハ
 後世岡丘などの字をのみ書る小目おれて。子と云
 とハ異小して。さばいさいの高き土をいふとのみお
 誤なり。ヲカのヲハ。峯上向峯ハ峯などの峯小て。山の
 上を云ことなり。カハ所の意小て。階所在所隱所奥所
サカ
 などのカ。の如し。既く一巻小も云り○木末之於ハ木
コ
 末ハ。コ。ノ。ウ。ラ。エ。の。約。り。さ。る。な。り。ノ。ウ。の。切。ヌ。ラ。エ。の
モ
 切レとなれり。さて木末之於といをむハ言重りてい
ヲケレノハ
 づづらなる如くなれども。集中小奥邊之方とも。荒風
オキハノカタ
アラシ

之風ともよめる如く言さへ異おれば重ね云小妨を
ノカゼ
 きことゝ志るべし○歌意ハ曉なりとて。夜鳥ハおま
キ
 るわけども。此のをのふ宿ぐら志めらる異鳥ハまど
ナ
 なきこゝね。ばいまど夜の深きこと志られり。さば
ナ
 のりいそぎるまふなと云るなり。男の別て
ナ
 いなむと志るとき。女のよめるなるべし
ナ

西市爾但獨出而眼不並買師
ニシノイチニ
ヒトリ
メ
ナラ
ベズ
カヘリシ

絹之商自許里鴨
キヌ
ノ
アキ
シ
コ
リ
カモ

る女を中媒をも立ぶるはこれひとりのもあらひふ
て、たやまりて妻と志するは後あしきことなどあ
りて、中さびひるとき小悔てよめるの、又

あぶこのまゝ、ふて、譬喻歌ふあらざるの

今年去新島守之麻衣肩乃間

亂者許誰取見

新島守ハ契沖異國の寇をふせむとめ小東の兵を
つくくつゝのたして、かのさきを守らせらるゝと島

守といふなり國々の兵相のわりく行ゆ急小今年の
役ふて行者と新島守といふなり天智天皇紀云是
歳於對馬島壹岐島筑紫國等置防與烽又於筑紫築
大堤貯水名曰水城これさきもりをおられ初なり
日本紀の和点小セキモリとあるハこのなのせと
サと似たる故小關守小聞おれてサキモリをかくな
がへするなるべしサキモリハ埼守なり異國の賊お
どのよせくべき埼々を守るゆ急の心なりその中ふ
むねと守らせ給ひけるハ筑紫なりと云り〇肩之間
亂ハ衣の肩の行の紙を云集中小袖ハマよひぬとも

多もとのくごりまよいきふけりなどもよめり。和名
 抄云。唐韻云。紕。繒欲壞也。萬與布。一云與流とあり。○許
 誰取見カトリミ 許ハ何字の誤。さらぞハ
 誰取見カトリミ 衍ふるべしと契沖云り。ハ。誰ありての取見
 て。穢垢カガレカ けバ洗カヨひ。綻カヨび破るればぬいなどせむとなり
 ○歌意ハ。今年の役ふかえりて行新防人の麻衣の肩
 の紕カヨを。誰ありての取見む。ふびふして妹もかければ。
 ときあらいぬいつぶりなどをべき人もあ
 らドをと。防守の功勞をねぎらふなるべし
 オホ
 大舟乎。荒海爾擗出。八船多氣。

アガ
 吾見之兒等之目見者知之母。

荒海ハ。アラウ。コナリ。ラウの切ル。となれり。○八船多
 氣ハ。契沖ハ。船。こゝ小てハ。おろる。數ハ。あらぞ。ハ
 度舟をこくといいふ心なり。舟多くハ。海のあらき所小
 て。舟のあやふきを。ちのらをとくをへて志のぐ心なり。
 土左日記。ふゆくりかく風ふきて。あけどもくまりへ
 一ぞきふ志ぞきて。ほとく〜くりあをめつべし。とい
 へりと云り。按。ハ。船。のハ。彌。の意あるべし。○目見者
 知之母とハ。目見ハ。目つきを云て。目もとふ志るくあ

らされてあるを云まみと云こと物語文いと多し
源氏物語若紫小つらつきふくらふまみのや
と髪のうちつくりげふそがれさるまゑも云々 母ハ
 歎息辭なり○歌意ハ父母などのまもりつよくして
 多やかく見おさき女を危く辛りして見しその女の
 我小心をよせりと云ことその目もと小あるくあ
 らされて嗚呼さても愛しく忘れおさしやといふあ
 るべし父母などの常小きびしくまもるを其を志の
 ぎて危く辛りして見さるを舟を荒海小出して風波
 の難小あひて危き目を見さる小漸そ
 の難と凌ぎさる小譬へさるならむ

ツケテトコロニノブ オモヒラ
 就所發思

百師モシ木乃キノ大宮オホミヤ人之ノ蹈跡フミシ所アト奥トコロ
 浪ナミ來キ不ヨラ依ザ有リ勢波セバ不ウセ失ザ有ラ麻思マシ

乎ヲ旋頭マシ
 歌

百師モシ木乃キノハ枕詞マシなり既出マシつ○蹈跡フミシ所アト藥師寺佛足石ヤクシヤテラシ
 碑歌イハヒ小彌蘇コミソ知阿麻利布多都チアマリフタツノ乃加多ノカタ知夜蘇チヤソ久佐等クサト曾ソ

太禮留比止乃布美志阿止々己呂麻禮爾母阿留可毛
 とあり○歌意ハ京地となりて大宮人の踏平一其
 跡所小奥つ浪の來よらざありせば猶もとのまゝ小
 在て失ぢあらまゝを奥つ浪の來よる海邊なれば今
 ハ京都ふてあり一とき跡形もあゝとなり此ハ近
 江大津宮をとりつされ一後小志賀辛埼あどのさまを
 よめる
 ならむ
 右十七首。
 古歌集出。

首字舊本小無

ハ脱するなり

兒等手乎コラガテハ枕詞マキなり手ムクを卷ヤマと云ハのけツ子ニアレドこり古事記神
 向山者常スギ在常過

往人爾往卷目八方。
ニシヒトニユキマカメヤモ

兒等手乎ハ枕詞なり手マクを卷と云ハのけツ子ニアレドこり古事記神

武天皇條御歌小延衰斯麻加牟ムマカとあるも將卷ムマカなり十

卷四下十小上瀬爾河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡

香カ廿ニ卷十下八小若草能都麻乎母麻可受云々とあるも

同ド古今著聞集集坊門院坊門院年比年比めめつつのの不不繪繪師師
 ののけてけて候候へへババ時時ををてて候候てて参参里里候候ふふべべししとといい御御物物をを時時
 ととああさまさまままししきき大大假假字字ふふ書書てて進進ららせせけけれれババ子子持持をを娶娶
 ろろけてけて候候へへババ娶娶ををてて候候てて参参里里候候べべししととああししさまさまふふ
 讀讀れてれていいささくくななめめげげああるるよよししささごごせせらられれささるるこことと
 ありありここのの娶娶○○過過往往人人爾爾とといいむむららししのの人人小小とといいををむむ
 もも卷卷意意なりなり○○過過往往人人爾爾とといいむむららししのの人人小小とといいををむむ
 ぶぶ如如しし人人のの女女ををささせせるるああるるべべしし爾爾ハハ乎乎とと云云意意なりなり
 君君とと戀戀妹妹をを戀戀ななどど云云意意なるなるををもも君君爾爾戀戀妹妹爾爾戀戀とと云云
 多多ぐぐいいなりなり○○往往卷卷目目八八方方ハハいいののふふささづづねねゆゆくくとともも
 嗚嗚呼呼卷卷得得むむややハハ卷卷得得どどととなりなり方方ハハ歎歎息息辭辭あありりママクク
 ハハ上上小小手手乎乎卷卷とと云云ののけけああるる卷卷ふふてて相相宿宿ままるるささままふふ
 りり宇宇治治拾拾遺遺ふふもも人人のの妻妻ままくく者者あありりとと云云りり○○歌歌意意ハハ

子等子等のの手手をを卷卷とと云云卷卷向向山山ハハ昔昔京京都都ふふててあありりししとときき
 のの如如くくふふ常常ふふかかええららむむ立立ててああれれどどもも時時ううつつりり人人異異
 りりらられれババももぎぎふふししむむののししのの人人をを慕慕ひひてていいののふふささづづ
 ねねゆゆくくとともも卷卷得得むむややハハささててもも口口ををししきき事事ををととなりなり

卷マキ向ムク之ノ山ヤマ邊ヘ郷トヨシ音テ而ユク往ミヅ水ノ之ミ三ミ名ナ

沫ワノ如ゴトシ世ヨノ人ヒト吾ワ等レ者ハ

歌歌意意ハハ卷卷向向のの山山邊邊ふふととららききてて流流行行穴穴師師川川のの水水のの
 泡泡沫沫のの如如くく有有ふふかかいいふふくくたたののああきき世世間間ああれれババいいのの

での吾身の行末をこのみ小思ふ
べきといへるなり無常の歌あり

右二首柿本朝
臣人謗歌集出

寄物發思ヨセテモノニノブオモヒヲ
旋頭レ歌

釵タチノシリ後サヤニイリ納野ヌ邇ニ葛引クズヒク吾妹ワギモ真袖マソテ

以モチ著點キセ等鴨テムト夏草カモ苧母ナツクズヒクモ

釵後ハ枕詞あり釵の鋒の鞘小入といひのけり○

納野ハ神名式小山城國乙訓郡入野神社ありそこ

契沖ハ和名抄小丹後國
竹野郡納野小やと云り ○夏草苧母ハ草ハ葛字の誤

なり舊訓クズとありこれよろし又苧ハ引の誤なり

と本居氏の云るの如し下三十三小三十三姫押生澤邊之真田ヲミナシサキサハノベノマク

葛原何時鴨絡而我衣將服とあり母モハ歎息辭なり○

歌意ハ納野小葛引婦女ハ己ヲ夫小令著てむとての

兩袖マテもて引らむさてもあわれの婦女やとなり此ハ

婦女の葛引をみてあれレ夫小織て令著てむとての

引らむとよそよりみてよめるなるべし畧解小我小織てきせむ

とて、真手もて夏葛引と云ありといへるハ、吾妹とあるハ泥めるふるべし。古へハ人の妻をも女をも、親みて吾妹といへること、常おふるをや

住吉波豆麻君之馬乘衣雜豆

臘漢女乎座而縫衣叙。

波豆麻君ハ、未詳からむも、ハ波豆麻ハ地名かどふて、そこハ住人と云ふ。本居氏ハ、豆麻君ハ里摩著の誤ふて、波里摩著之なるべしと云り。かゝ考べし。○馬乘衣、舊訓ハ、マソコロモ。契沖ハ、ウマノリキヌとよむべし。

李周翰曰漢女蜀之美女詩注

きの、今の俗、雨衣のせぬひのまをぬいあをせぬと。りまのりをあくるといひて、馬ふのる時、さよりよのらむあめふされば、むのしをさる體の衣かどを、馬のりきぬとて、用意しること、もや侍りけむと云り。本居氏ハ、乘ハ、垂字の誤、マダラノコロモとよむべしと云り。猶考べし。○雜豆臘ハ、既く云り。○漢女乎座而ハ、漢女ハ、舊訓ハ、マソコロモとあり。漢女と書る所由ハ、毛詩小、漢有游女と云語、ふよれるなりと云り。契沖ハ、女多き故、漢女とのきて、或説ハ、雄畧天皇、紀小、十四年春正月、身狹、村主青等共、吳國使將、吳所獻手末才伎

漢織^{アヤトリ}及^{ハトリ}衣縫^{マタキヌ}兄媛^{エヒメ}弟媛^{オトヒメ}等泊^{ハラフ}於住吉津^{ハナキ}とある小よ
 りて漢女^{アヤメ}ハアヤメと訓て漢國の衣縫女^{マタキヌメ}と呼てぬハ
 せさる夜^ヨそといひゆるありと云り座^マ而^{シテ}ハマセテと
 よむべし俗小招待^{ハヤブルカニニモナオホセウラベマセカメモナヤキソ}してと云むが如し十六^{十三}小千^十
 磐破^{ハヤブルカニニモ}神爾毛^{カニニモ}莫負^{ナオホセウラベ}卜部^{マセカメモナヤキソ}座龜毛^{モチノヨニイデニシツギノタカクニキミライマセテ}莫燒^{ナニシカオモハム}曾云々^{ナニシカオモハム}十二^{十八}小
 十五日出^{モチノヨニイデニシツギノタカクニキミライマセテ}之月乃高々爾君^{ナニシカオモハム}乎座而何物乎加將念^{ナニシカオモハム}など
 あり○歌意ハ此ハ大方の夜^ヨあらむ愛^{アイ}しき漢女^{アヤメ}を招
 待^{マツ}してぬへる夜^ヨそと衣^{キヌ}をあさて、人^{ヒト}小贈^{コオマケ}るとて戯
 小よみてやれ
 るなるべし

住吉^{スミノエノイデミ}出見^{ハマノハマナ}濱^{カラ}柴^サ莫^子荊^ヲ曾^ト尼^ト未^ト通^ト
 女^メ等^{ドモ}赤裳^{アカモ}下^{スソ}閨^{ヒゲ}將^{ユカマクモ}往^ム見^ム

出見^{スミノエノイデミ}濱^{ハマノハマナ}ハ地名^ナあるべしイテハマのイヅシハ
 マのな不^タ探^ツ索^グぬべし○柴^サ莫^ト荊^ヲ曾^ト尼^トハ柴^サの上^ノ小^コ今^{イマ}一
 つ濱^{ハマ}字^ジを脱^{ダシ}せるならむさて柴^サハ菜^ナの誤^{アヤマ}曾^トハ者^{シヤ}の誤^{アヤマ}
 莫^トハ衍^マ小^コて濱^{ハマ}菜^ナ荊^ヲ者^{シヤ}尼^トとありしを字^ジを誤^{アヤマ}てシバナ
 カリソ子^コとよみさるより莫^ト字^ジを謾^マ小^コ補^ホへさるあな
 不^フよく考^{カウ}べし畧^{リヤク}解^ゲ小^コ尼^ニ字^ジを子^コのあふ用^{ヨウ}ひさる例^{レイ}
 ありと云れどああらむ萬葉古義七下集中^{シュウジュウ}子のあ

保^ホ波^ハ尼^ニあ^アど^ドあり^リ又^マ第^{ダイ}三^{サン}句^ク莫^ム乘^セ曾^{ソウ}前^{ゼン}尼^ニの^ノ誤^ゴふ^フて^テ十^{ジュウ}ノ
 リ^リソ^ソカ^カリ^リニ^ニと^ト訓^{クン}べ^ベし^シと^ト○第^{ダイ}三^{サン}句^ク已^イ下^ゲハ^ハヲ^ヲト^トメ^メド^ドモ
 云^{クモ}説^{セツ}も^モう^ウべ^ベな^ナい^イが^ガさ^サし^シ○第^{ダイ}三^{サン}句^ク已^イ下^ゲハ^ハヲ^ヲト^トメ^メド^ドモ
 ア^アカ^カモ^モス^スソ^ソヒ^ヒチ^チユ^ユカ^カマ^マク^クモ^モい^イム^ムと^トよ^ヨむ^ムべ^ベし^シ。畧^{リョク}解^ゲふ^フ
 句^クを^ヲア^アカ^カモ^モス^スソ^ソヒ^ヒチ^チユ^ユカ^カマ^マク^クモ^モい^イム^ムと^トよ^ヨむ^ムべ^ベし^シ。畧^{リョク}解^ゲふ^フ
 カ^カム^ムを^ヲア^アカ^カモ^モス^スソ^ソヒ^ヒチ^チユ^ユカ^カマ^マク^クモ^モい^イム^ムと^トよ^ヨむ^ムべ^ベし^シ。畧^{リョク}解^ゲふ^フ
 濱^{ハシ}の^ノ濱^{ハシ}菜^{サイ}を^ヲ刈^キ賜^ミも^モね^ネさ^サら^ラを^ヲ其^{ソノ}刈^キ小^コ行^{コウ}を^ヲと^トめ^メど^ドも
 の^ノ赤^{セキ}裳^{ショウ}の^ノ裾^{スズ}の^ノ濕^{シツ}て^テ行^{コウ}容^{ヨウ}貌^{ボウ}を^ヲも^モ見^ミむ^ムそ^ソと^トな^ナる^ルべ^ベし^シ
 ス^スミ^ミノ^ノエ^エノ^ノヲ^ヲダ^ダヲ^ヲカ^カラ^ラス^スコ^コマ^マツ^ツコ^コカ^カモ^モナ^ナキ^キヤ^ヤツ^ツコ^コア^アレ
住吉。小田。前爲子。賤。鴨無。奴。雖。
 在^ド妹^{イモガ}御^ミ爲^{タメト}私^{アキノ}田^タ前^{カルモ}。

小^コ田^{テン}前^{ゼン}爲^ヘ子^シハ^ハヲ^ヲダ^ダヲ^ヲカ^カラ^ラス^スコ^コと^ト訓^{クン}カ^カラ^ラス^スハ^ハカ^カル^ルの
 伸^{ノビ}り^リ多^タる^ル小^コて^テ。ラ^ラス^スの^ノ刈^キ賜^ミふ^フと^ト云^ク小^コ同^{ドウ}ト^ト○賤^{セツ}鴨^{カモ}無^{ナキ}ハ
 奴^ヌ隸^{レツ}ふ^フて^テ手^テ自^ジら^ラ田^{テン}を^ヲ刈^キ賜^ミら^ラむ^ムの^ノと^ト云^クなり^リ○私^シ田^{テン}
 前^{ゼン}ハ^ハ私^シハ^ハ秋^{シュ}字^ジの^ノ誤^ゴなら^ラむ^ムと^ト云^クる^ル説^{セツ}ふ^フよ^ヨる^ルべ^ベし^シ。さ^サて
 此^{コノ}句^クハ^ハア^アキ^キノ^ノタ^タカ^カル^ルモ^モと^トよ^ヨむ^ムべ^ベし^シ○歌^カ意^イ本^{ホン}句^クハ^ハ問^{モン}
 小^コて^テ末^{マツ}句^クハ^ハ答^{コタヘ}なり^リ住^ジ吉^{キチ}の^ノ小^コ田^{テン}を^ヲ刈^キ賜^ミふ^フ君^{キミ}ハ^ハ令^{メイ}刈^キべ^ベ
 き^キ奴^ヌ隸^{レツ}な^ナく^クて^テ手^テ自^ジ刈^キ賜^ミふ^フら^ラむ^ムの^ノと^ト問^{モン}さ^サる^ルふ^フい^イな^ナさ
 小^コあ^アら^ラむ^ムの^ノら^ラむ^ムべき^キ奴^ヌ隸^{レツ}ハ^ハあ^アれ^レど^ドも^モ奴^ヌ隸^{レツ}小^コ令^{メイ}せ^セて
 刈^キし^シめ^メバ^バ。麿^{サマ}忽^ツふ^フも^モそ^ソな^ナる^ル。親^{チモ}切^キふ^フお^オも^モふ^フ妹^{イモ}の^ノ御^ミ爲^{タメ}の
 故^{コト}ふ^フか^カる^ル稻^{イヌ}な^ナれ^レバ^バ大^{ダイ}切^キふ^フと^トり^リま^マの^ノな^ナひ^ヒて^テ手^テづ^ヅの^ノら

秋田をのるそ、さてもから

き業そとことこれるなり

池邊イケノベノ。小槻ツギ下モトノ。細竹シヌナ。苧嫌ソノ。其谷ソレヲダニ。君キミガ

形見カタミ爾ニ。監ミツ。乍ツ。將シヌ。俣ハム。

細竹の下小莫字落しりと契沖云りさもあらむ。又嫌
ハきらいいさむる謂なれば莫字小あさる義あれバ
もとのまゝふてもあるべし。さらバ次の歌小莫苧嫌
とある莫字ハかへりて衍とさべきの○歌意ハ池邊

の小槻が下の細竹を刈ことなあれ其となりと
も君が見しのみ小見つゝ慕えむそとあり

天アメ在ナル。日ヒ賣メ管スガ原ハラノ。草スゲ莫ナ苧カリ嫌ソノ。彌ミ那ナノ

綿ワタ香カ鳥ガロキ髮カミ飽ニ田アタ志タ付シ勿ツクモ。

天在云々ハ契沖天小ある日とつゞけて。姫管原と云
ハ地名なるべしと云り。然ることなるべし。又按ふ在
ハ傳の誤ふてもあらむ。天傳日笠の浦などもよめれ
バなり。○日賣管原ハいづく小あるならむ尋ぬべし

○草莫萌嫌ハ草ハ管の草書を誤れるなるべし。集中
 外亦も例有ッスゲナカリソ子と訓べし。彌那綿ハ枕
 詞なり。既に委云り。こゝハ那の下小乃字などの落し
 の○歌意ハ管原小立入て管を刈女を見てし。の管を
 かることなかれ。汝のりるをしき髪小。效のつきて穢
 れむハ。さてもをしき事そと云るなり。畧解ハ本居氏
 の説を引て。天小
 るハ。天上小あるひめをげ原なり。志のらざれば。髪小
 效のつくと云よしなし。これハ天あるさゝらの小野
 の類小。あゞまりけて云のみふりと云れど。ころし。こ
 ど。設て云物小。こをよれ。天上の野小。て管をのらむ
 小。此國土の人の髪小。效のつくふどいむハ。
 いとも。く。りつけさること小。あらぎや。さゝ
 らの小野ハ。天上小ありもやせむ。此ひめ管
 原ハ。決して天上の小ハあらざることあるし。

ナツカゲノ子ヤノシタニキヌタツワギモウラマケテ
 夏影房之下邇衣裁吾妹裏儲。

アガタメタハバイヤヒロニタテ
 吾爲裁者差大裁。

夏影房之下邇ナツカゲノ子ヤノシタニ邇字、舊本亦庭と作るハ誤ハ契冲夏の

あつきころハ。木小もあれ何ふてもあれ陰の涼しき
 所小ぬるゆゑ小。夏おげのねやの下とハいふなり。今
 案小。女ハ北の方ふのくこもりてをるものなり。北窓
 の涼も夏小よるしければ。夏おげのねやとハ云りと
 いへり。已上契ウラマケ下ハ裏と云むが如くなるべし。○裏儲

君^{キミ}毳^{カモ}とて

擧^キり

撃^{ウチ}日^ヒ刺^{サス}宮^{ミヤ}路^ヂ行^{ユク}丹^ニ吾^ワ裳^{ガモ}破^{ハヤレ}玉^{タマ}緒^{ノヲ}

念^{オモヒ}委^{ミカレ}家^テ在^{イニ}矣^{アラマシ}

撃^{ウチ}日^ヒ刺^{サス}宮^{ミヤ}の枕^{マク}詞^シなり○玉^{タマ}緒^ノハ亂^{マシ}の枕^{マク}詞^シなり○念^{オモヒ}委^{ミカレ}家^テ在^{イニ}矣^{アラマシ}

やづのへなどふことよせて、あけく宮路をのよふお
我^ガ裳^{カモ}ハ破^ハれぬ、さりとしてあふこともあければ、中々小
思^{オモ}ひみづれなぐら、それなりお家お
ありぬべのりけるものをととなり

君^{キミ}爲^ガ手^テ力^カ勞^{ラウ}織^{オリ}在^{タル}衣^キ服^ヌ斜^ヲ春^{ハル}去^{サラバ}

何^{イカナル}何^{イロニ}摺^{スリ}者^テ吉^バ

衣服^{キヌヌ}斜^ヲハ、本居氏云、斜ハ料の誤なり、織る絹ハ、衣服
の料なれば、のく書てキヌとよませり○何何ハ、同

人何色イカニイロニの誤なり。何とと書ると。何々と見て。書誤れたるなりと云り。○歌意ハ。夫君セウお著せむの料タテ小女の手テカつあらし。いさづきて織オリる其衣を。春の來らば。何色お摺ウラそめて著せらば。君の心おふさいで。よのらむそと
なり

橋立ハシ倉クラ椅ヤマニ山タテ立シラ白クモ雲ミマク見ホリ欲アガ我スル爲

苗ナベニ立タテ白シラ雲クモ

橋立ハシハ倉椅クラヤマニを云むとての枕詞なり。まづ橋立ハシとハ。垂仁天皇紀チニお八十七年石上神寶を大中姫命ナカノヒメノミコトお掌アサしめむとせらるゝ時。姫の言コト小吾手弱女人也。何能登ノボ天神庫ク邪ヤ五十瓊敷命イツウシキノミコト曰イハレ神庫雖高。我能爲神庫造梯ハシ。豈煩ナラ登庫乎。故諺コトワザ曰イハレ神之神庫カミノホコ隨樹梯ツクハシ之。此其縁也コノヨシナリ。神之カミノハ天アメある樹梯ツクハシこれなり。さて樹梯ツクハシハ。何處ナニおまれ。高所タカお登らむ料タテお造れる梯ハシをバ。庫梯クラヤマニとそ云けむ。りつ不物語ツクハシお樓ウチのぐをハ。色々の木をませくおつくりて。下より流るゝ水ハ。涼しく見ゆべく作る云々。枕冊子マクラノチお泊瀬トヨセおどおまりで。つねおねる不ツとハ。くれを。のものと。車引よせてとて。るお。おびを。り。と。このき法師フシハ。ら

のありざといふ物をききていさゝあつゝみるふく
の誦を少いひついでけありくこそ所みつけてをの
の御云々又いれむしをのりごりどいていつ一の佛
云など見えさるくれをしむくらを一の轉語みて庫
揚氏漢語抄云牙床久禮度古とあるも今案みこれ座
床の義あるべき此ハ事のかれば庫梯ハやめて
ついでいへるのみなり
庫の梯立おてあるなれば梯立の庫梯とハ續けくな
り冠辞考の説ハ言足な不梯立ハ續後紀十九興福寺
僧等長歌ハ瓠葛天能梯建踐歩美天降利坐志々丹後
風土記ハ與謝郡郡家東北隅方有速石里此里之海有
長大石前長二千二百廿九犬廣或所九犬以下或所十

犬以上廿犬以下先名天梯立後名久志濱云々和名抄
小ハ梯木階所以登高也和名加々波之と見えり○
倉椅山ハ大和國十市郡ハあり崇峻天皇倉椅柴垣宮
小天下志ろゝめされ又諸陵式小倉梯岡陵在大和國
十市郡天武天皇紀小十二年十月天皇狩于倉梯續紀
小慶雲二年三月癸未車駕幸倉橋離宮などあり古事
記小仁德天皇御弟速總別王女鳥王とぬまみ難波を
小げて大和國小至り倉椅山小上るとてよみ給ふ波
斯多豆能久良波斯夜麻表佐賀志美登伊波迦伎加泥
豆和賀豆登良須母又波斯多豆能久良波斯夜麻波佐

賀斯^{ガシケ}祁^ド伊^イ毛^モ登^ト能^ノ煩^{ボレ}禮^レ波^バ佐^サ賀^ガ斯^シ玖^ク母^モ阿^ア良^ラ受^ズと見え
り。○立^{タテ}白^{シラ}雲^{クモ}ハ契^キ冲^シ云^ク立^{タテ}る白^{シラ}雲^{クモ}みま^マく^クなりといへ
るハ女^メ小^コ多^タとへりよそふのこみてややみなむの
づらきの高^{タカ}間^マの山^{ヤマ}のみねの白^{シラ}雲^{クモ}と云^ク歌^{ウタ}も同^{ドウ}ド心^{ココロ}な
り浪^{ナミ}雲^{クモ}のりつくし妻^{メケ}とよめるやうふをれさる山^{ヤマ}小
白^{シラ}雲^{クモ}ののゝるも見^ミ所^{トコロ}あるものなればよせていへり
○歌^{ウタ}意^イか^カくれと
るところなり

橋^{ハシ}立^{タテ}倉^{クラ}椅^{ハシ}川^{ガハノ}石^{イハノ}走^{ハシ}者^ハ裳^モ壯^ヲ子^サ時^{カリニ}。

我^{アガ}度^{ワタセリシ}爲^{イハノ}石^{ハシ}走^ハ者^モ裳^モ。

倉^{クラ}椅^{ハシ}川^{ガハノ}も右^{ミダヒ}と同^{ドウ}地^チなり河^{カハ}ハ天^{テン}武^ブ天^{テン}皇^ス紀^キ小^コ七^シ年^{ネン}是^シ春^{ハル}
云^ク々^々豎^{タツ}齋^{サイ}宮^{ミヤ}於^カ倉^{クラ}梯^{ハシ}河^{カハ}上^ノ云^ク々^々三^{サン}代^{ダイ}實^{ジツ}録^{ロク}小^コ負^フ觀^{カン}十^{ジュウ}一^{イチ}年^{ネン}
七^{シチ}月^{ゲツ}八^{ハチ}日^{ニチ}大^{ダイ}和^ワ國^{クニ}十^{ジュウ}市^シ郡^{クニ}掠^{ラク}橋^{ハシ}山^{ヤマ}河^{カハ}岸^カ崩^{クズ}裂^レ高^{タカ}二^ニ丈^{ヤク}深^シ一^{イチ}
丈^{ヤク}二^ニ尺^{シツ}其^{ソノ}中^{ナカ}有^{アル}鏡^{カガミ}一^{イチ}廣^{ヒロ}一^{イチ}尺^{シツ}七^{シチ}寸^{サツ}採^{ツキ}而^{シテ}獻^{ケン}之^ヲとあり○石^{イハ}
走^{ハシ}者^ハ裳^モハ石^{イハ}の橋^{ハシ}ハ今^{イマ}いづく小^コあるそと尋^ヒ慕^ヒふよ
なり石^{イハ}走^{ハシ}のこことハ既^{スデ}く云^クり者^ハ裳^モハ歎^{ナゲ}息^キきて尋^ヒ慕^ヒふ
意^イの辭^ジなり○壯^ヲ子^サ時^{カリニ}ハととこさのりの時^{トキ}小^コといふ
意^イあり○我^{アガ}度^{ワタセリシ}爲^{イハノ}ハアガワタセリシとよむべし○後

の石走者裳イハシハカモハ上の事を反復カヘサいいひて尋慕コトふ意の深コト切コトなるをあらをくするなり○歌意ハととこさありの時小倉橋川小吾こころしてあり石の橋ハあとのももなし今いづく小あるそとあづねあふよかり此歌ハむの契りカケをのけ入の今ハあえぬるをことへあるならむ

橋立倉橋川河静管余苧笠裳ハシタテノクラハシガハノカハノシヅスゲアガカリテカサニモ

不編川静管アマズカハノシヅスゲ

静管シヅスゲハ畧解ハ下草の意小て管のシ小きを云ふ又ハシ静ス一種の管の名のと云れどシいシびシことなり

ハ借字小て石著管シヅスゲなり六卷十九小千鳥鳴其佐保川チドリナクソノサホガハ

爾石二生管根取而云々とも見えれば石著管シヅスゲといふべきものなり○余苧笠裳アガカリテカサニモ不編アマズとハ契冲云心い

とつ小この物とハ志めてもまごことなるぬ小ふとふるなり此意ふる歌多一第十一の四十五葉同四十

八葉小各二首第十三の廿七葉の長歌小もありまべ

て物小よせてよめるハ管ツクマからねど同意あり第三小

託馬野爾ツクマニニオフルムキキシメイマダキズシテイロニデニケリ生流紫衣染未服而色爾出来カハノシヅスゲおよそ此類な

り○川静管カハノシヅスゲハ上の事をふとび反復カヘサいいひてその

深切ある意とのべらるなり。歌意ハ、倉崎川の石著
菅の愛しきと刈取來て、吾物とハ領されど、未笠小編
て著ぎといへるふて、女の心ふりけいきて、契をわか
えしとれど、いまど相宿せざるをことへあるなるべ
し

春日尚田立羸公哀若草媿無

公田立羸

歌意ハ、長き春の日とさへ終日田小立つのる、君ハ
妻ふき人小て、業をさるくる人もふき故ふいとふみ
の間ふきことよさてもふか

しきさまやと云なるべし

開木代來背社草勿手折已時

立雖榮草勿手折

開木代十一小もかく書り、契冲山と云ふ開木とあけ
るハ、第六小百木成山ハ木高しとよめる心ふて、諸木

山より開出を故のと云り。代をシロとよむハ拾苴抄
田藉部小凡田以方六尺爲十步云々積七十二步爲十
代百四十步爲廿代云々五十代爲一段式云代頭也云
云とあり。今云諸木山より開出を云ハ開ハ開發を
云といふことなるむ。これハ開木とありてヤマと
訓せざる所以を解るなり。按ふ代ハ網代苗代ふどの
代を設ふるの設ふる地をマシといふことふれば木を伐り
書をふらむのされバ代字 ○來背社ハ契沖云神名式
小山城國久世郡小大社十一座小社十三座を載り
大社十一座ハ石田神社一座水主神社十座なり。石田
神社ハ此集小も異小して名を出しされバ久世社ハ

三座伴託不審
水主坐檢
本書檢
あり猶善本よ
よりて訂きべ

さゝめて水主神社なるべし。式小水主神社十座の下
小注して云並大月次新嘗就中同水主座天照御魂神
三座伴託山背大國魂命神二座預相嘗祭といへり○
己時ハシガトキトとよむべし。舊訓ハオノガトキシ
ガハそれのと云意小も又汝のと云意小もかよひて
聞ゆる言なり古事記歌小波毘呂由都婆都婆岐斯賀
波那能云々芝賀波能云々又加良奴表志本爾夜岐斯
賀阿麻理云々書紀雄略天皇卷歌小志我都矩屢麻泥
爾云々又柯該志須彌難波旨我那誓摩云々集中小ハ
五卷三十九小愛久志我可多良倍婆云々十九廿一小鷺

河立取左牟安由能之我婆多婆又サシケラシ黄楊小櫛之賀カクテラサムアユノシガハタハセセツダシシガ
 左之家良之又サシケラシ秋花之我色々爾ふど見えとり三十九畧イロクニ
カサガトキトとよめるハ○歌意ハ山城の來背社の解
 草ハ神の領賜ふ地の草小てその恐あれば謾小手折
 ることなれ多とい己時と時を待得て立榮のびて
 折まねく思ふとも堪忍シひて手折ることなれと
 反復カハサいひて戒カとるふるべし此ハ社をもていへる
 を思ふ小主ある女小思ひをあく人ある小あけ
 さりハとるともあなぢなることカおせそ多とい志
 のときと女のみさのりの時を待得て榮ゆると愛し

くハ思ふとも主ある女なればあぢなる

ことカをカとることカあれと深く戒めとるの

青角髮アヲミヅラ依網原サシノハラニヒトモアハヌカモイハバシルアフ人相鴨サシノハラニヒトモアハヌカモイハバシルアフ石走淡サシノハラニヒトモアハヌカモイハバシルアフ

海縣物語爲ミノガタリセム

青角髮ハまづ角髮ハアヲミヅラ廿卷小阿母刀自母多麻爾母賀アモトジモタマニモガ
 母夜伊多太伎豆美都良乃奈可爾阿敞麻可麻久母とモヤイトダダキテミヅラノナカニアヘマカマクモ
 見えとる美豆良小て上代男の装小て髮を左右へ分ミヅラ
 て結縮ユヒアガ子とるものなり古事記小天照大御神の即解御ユヒアガ子

髮纏御美豆羅と見え書紀小息長足姫尊の櫃日浦小
 して結髮爲髻とあるふども假小男の貌小化とまふ
 を云りとも又崇峻天皇紀小古俗年少兒年十五六間
 束髮於額十七八間分爲角子今亦然之と見ゆ左右小
 ある角の如くふる故小角髮角子かど書るなり契
 角髮ハ鬘の義小てカヅラともよむべければハ
 日本紀小見えたる天吉葛の心小てアヲカヅラヨ
 サコとつゞけさるるあをみづらさてこハ小角髮と
 小ても此義難ふいと云るハ非ぞ
 書るハ借字小て依網ハ碧海郡ふれば碧海アラミヅラ依網ヨサミと
 いへるなるべしと門人南部嚴男いへりさもあるべ
 しツラ面ツラとハ海面と海豆良ウミヅラといふその豆良ツラ小て碧海の

地面小ある依網ヨサミといへるなるべし○依網原ハ和名
 抄小參河國碧海郡依網與佐美とある地ふるべし他
 も依網ヨサミてふ地ハあれど此歌○人相鴨ハヒトモアハ
 又カモとよみていので人もぶあへあへると願ふ意
 なり○石走ハ淡海の枕詞なり一巻小出つ○淡海縣アラミ
 ハ遠江の縣小て淡海アラミとハ近江を近津淡海チカツアラミと稱遠江
 を遠津淡海トホツアラミと稱て古ハ遠江といふときハ二國
 小こされる故小此ハ遠江をいへるなり縣ハ官人の
 任國を云り本居氏此歌遠江國司の下る道小參河國
 の依網原小てよめり小て淡海縣とハ任國の遠江と

さして云るなり。古今集小、文屋康秀の参河掾小なり
て、縣見小ハ得出と、トヤと云やれりける云々。土左
日記小、或人縣の四年五年をて、云々ふとあるも、其
任國を指て縣と云るあり。又縣名と云ことも、諸國の
官人を任よりの名なり。さて縣ハもと朝廷の御料ミカドノミツふ
陸田物ハタツモノを貢進クニマツる地と云こと小て、官人の任國を指て
縣と云ハ、古小京より國々の御料の縣小、官人などの
往來マキカヒしころの、名目の遺れりしふりと云り。ふら古事
記傳廿九五十九丁小、委曲ツラ小見えしり。○歌意ハ、京へ上る
道中の、参河國、依網原小、いので思ふ人もふあへの

し、さらばわが任られてありし、遠江國のありしやう
を、物語してきあせむととなるべし。此、歌ハ、遠江國の
司、任をて、上る道、参河のよさみの原小てよめる小
て、實ハ思ふ人小逢まよしきを、さといをて、あがお
はよそい
へるなり

水門葦末葉誰手折吾背子振

手見我手折

振手見ハ或説小振の下小衣字を脱せる西ソテフル
こムトとあるべしと云り○歌意ハみおとのありの
りら葉をそも誰の手折しそととめらる小これハ
旅行君のみおとこをなれてゆくときかへりみ
つゝ袖ふるをみむ鳥ふとてこが手折のけりありと
ことこれるなり一首の中小問答の意あること上の
住吉小田新為子

云々の類なり

垣越犬召越鳥獵為公青山葉

茂山邊馬安君

垣越ハ本居氏犬と云む枕詞あり歌意小ハのゝえら
むと云り○犬召越ハイヌヨビコセテと訓べし犬を
よび令來而なり○歌意ハ犬をよび令來て率往て鳥
獵しこまふ公よ青山の木ぐらく葉茂くまげりこる
山邊ハきへめてけをまくさびのるべきふればそ
の處小ハ馬をとがめやめめてよくてつゝみおく
おえしこまへ君よとなりこれハ夫君
をいとやゝみて女の告るなるべし

海底奥玉藻之名兼曾花妹與

吾此何有跡莫語之花

此何有跡ハ契沖何ハ荷の誤あるべしと云リ。コ。ハ。ニ。アリトと六言小よむべし。○歌意ハ本ハ莫語といをむさめの序小設けいへるのみみて妹と吾と此處小率て密シひ隠カてありといふことをゆめく人小告ることなあれといふことを。莫語之花小云つゞけさる小て此歌ハ男女海邊の葦原ふど小率て隠れ居るとき。

其所のもの小令さる

やういへるなり

此崗草苺小子然苺有乍君來

座御馬草爲

小子ハコドモと訓べし。畧解ハワラハともヲノコと○然苺この兩字の間小莫字おどの落しあシカナカリ。リノ子と訓べし。職人歌合ハ朝夕小君をバかれぢみそめ○歌意ハ此岡ふて草刈子等ふ然むありことづく

残さば川取てゆくことおのれ。この思ふ君が。ありく
て。絶む馬ふ乗て来りま。其馬を飼料の御秣ミマシふせ
むそと

なり

江林エハシニ次完ヤトルシ也物モ求吉モトケニ白栲シロクハノ袖ソテ纏マキ

上アゲテ完待我背シマツワガセ

江林エハシハ契冲名所あるべしといへり。中山、嚴水、我、土左、
國、小、麓、ハ海、小、ほ、とり、上、ハ平、ふ、して、畠、あ、ど、有、其、涯

けをくくして林となれる所を俗小えみと云り。若古言
ふらば江林の江ハこのえみと同言小や此えみ小や
どもあハ取やをければ求る小よきと云のと云り。
按オモふ小江ハいへばえ小或ハえならぬあどいふえハ
浅き意なりされバ江林と云も奥深のらぬ林の義か
るべし。さる處小やどれる猪鹿ハ奥深く逃入方あけ
れば獲やをさ謂なり。いをゆるえみのえもさるよ
小こそあらぬ猶考べし。○次完ヤトルシ也物モとハ完シハ猪鹿シか
り。完ハ古書小完と通用シなり。猪鹿小借てのけり。本居
ハ伏の誤。求吉ハ來告の誤。小て。フセルシ。ハヤモ。
キ。又トツゲコシあるべし。といへれどいハ。○袖ソテ

纏上マキアゲテのりマキアゲテでまくりをまゐることなり。後拾遺集小袖ふ
 れバ露こぼれけり秋野ハまくり手小てそゆくべの
 りけるとあり○歌意ハ江林小やどる猪鹿の求る小
 易キ小やうでまくりをして猪鹿の出来むを吾兄の待
 居ルよといふぶ表小て裏の意ハ女のなびきより來む
 ほとをりのゝひていまご言出をもせびして下待居
 る男をかこをらよ
 り見ていへる小や

丸アラ雪降レ遠フリ江トホツ吾ア跡ド川カハ揚ヤナギ。雖カレ荊ドモ亦マタモ

生オフ云チフ。余ア跡ド川カハ揚ヤナギ。

丸雪降ハ遠の枕詞なり。十一三十五小も。霰零遠津大浦アラレフリトホツオホウラ

爾縁浪ニヨルナミと見えさり丸雪とかけるハ戀水ナミダ火氣ケ白氣グリキリイカ重ナミ

石青頭雞リカモなどかける小同リカモく義を得て書リカモるなり。

さて此つゞけの意いと心得契沖あてなるを契沖あら

とつゞくあり音をとのみよむ其例浪の音をなみ

のと梓弓スサキつまひく夜音ヨナミおど云りと云るハこる。

強て考ヒカる小霰零飛打ヒカといふ意ヒカふつゞけあるなるべ

一霰の降ハ飛走り打附るごとくなればあヒカいふあ

十四小楊奈疑許曾伎禮婆伴要須禮余能比等
乃古非爾思奈武乎伊可爾世余等曾とあり

朝月日向山月立所見遠妻持

在人看乍惚

朝月日向といをむとての枕詞なり○月立所見ハ
古ハ月の出るを立と云り十一小味酒之三毛侶乃山
爾立月之云々十四小乎豆久波乃禰呂爾都久多思
どよめり月數の歷ると月の立といふも又朔を月立

といふもむとこれより起れるなりさて夕テルニユ
と云ぐして夕テリと志むらく歌絶てユと云こと
古風なり上小多ひぐ例あり○歌意ハ見渡さるゝむ
のひの山小月の立て面白くてれる可見ゆる何えれ
遠き所小思ふ女を持らむ其人ぞ小今夜ハ必その
女の許小往て共小見つゝ愛むらむと思ふと吾ハ妻
な小して獨見る小ハその志るゝな
ければいよくあふといへる小や

右二十三首柿本朝
臣人磨之歌集出

春日在。三笠乃山。二月船出遊。

士之飲酒杯爾陰爾所見管。

歌意表ハ。きこえこるまゝ。ふて裏ハ。愛しき女ののは
の。不の。あ小此方小見えこるのみ。ふて。あとへ。酒杯
小月影のりつりこるごとく。ものいひあえは。こと
か。あ。え。ね。ば。い。よく。あ。つ。の。し。き。心。小。堪。ご。の。き。謂。ふ。ら
む
の

右一首古

歌集出

行路

遠有而。雲居爾所見。妹家爾早

將至。歩黒駒。

歌意ハ。間遠く。遙小在て。雲居の外小見や。らる。妹が
家小。早く。至らむ。と思ふ。速。小。歩。め。吾の。れる。黒駒よ

となり。十四ナナ十七ナナ小等保久之氏ホクシテ久毛クモ為爾見由流伊毛ニ見ユルイモ
我ガ敝爾伊都ニイツカ可伊多良武安由賣イタラムアユノク久路古麻クマとていごせ

右一首。柿本朝臣
人奮之歌集出。

譬喻歌タトヘウタ

寄衣ヨス コロモニ

今造班衣服。面就吾爾所念未イマツクル マダラノ コロモ メニツキテアレハ オモホユ イマダ

服友キ子ドモ

今造ハ今新小造るよイマツルなり。今イマの意既く委ウ云り。平家物語小新日吉新熊野などいへる新イマ小同ト。面就ハ契沖のメニツキテとよめるよキヌニツクナスる。目小就ての意メニツクワガセあり。一卷チ十三小チ衣爾著成目爾都久和我勢キヌニツクワガセとあり。畧略小オモゾキテとよめるハ非キぞ。○吾爾所念ハもとのまキふてハ通通難し。爾ハ者の誤キふてアレハオモホユキなり。即即一本小

者とありと云り。も。又爾字本のま。ならバ。吾ハ常
の誤。小。テ。ツ。子。ニ。オ。モ。ホ。エ。小。も。ある。べ。一。〇。歌。意。ハ。い
ま。ご。逢。見。ざ。れ。ど。も。女。の。う。る。を。一。さ。小。目。小。つ。き。て。こ
れ。ハ。つ。ね。お。こ。ひ。一。く。お。は。た。る。一。と。い。ふ。こ。と。を。衣。小
譬。て。い。一
る。な。り

紅カニ衣カクニ染ヒト雖ハイ欲フ著ト丹モ穂オリ哉ツ人ガ可ハ知タ。
カニ。カクニ。ヒト。ハイ。フ。ト。モ。オリ。ツ。ガ。ム。ア。ガ。ハ。タ。モ。ノ。シ。ロ。

著丹穂哉ハ穂の下小字をおとせるなりと契沖云り。
さることなり。按。小。羽。者。の。二。字。な。ど。を。脱。せ。る。の。さ。ら

バ。キ。テ。ニ。ホ。ハ。ビ。ヤ。あ。り。又。ハ。瀬。者。の。二。字。を。脱。せ。る。お
も。ある。べ。一。さ。ら。バ。キ。テ。ニ。ホ。セ。バ。ヤ。と。訓。べ。一。ニ。ホ。セ
ハ。ニ。ホ。ハ。セ。と。云。の。如。一。〇。歌。意。ハ。紅。ハ。う。る。を。一。き。色
な。れ。バ。衣。小。染。ま。な。一。く。ハ。思。へ。ど。も。著。て。お。は。い。さ。バ。
そ。れ。と。人。の。志。る。べ。き。の。さ。て。も。染。ま。な。一。き。色。哉。と。の
謂。な。り。愛。一。き。女。を。戀。一。く。ハ。思。へ。ど。も。そ。れ。小。逢。見。バ。
早。く。あ。ら。わ。れ。む。の。と
云。を。あ。と。へ。あ。る。な。り

千名。人。雖。云。織。次。我。二十。物。白。
カニ。カクニ。ヒト。ハイ。フ。ト。モ。オリ。ツ。ガ。ム。ア。ガ。ハ。タ。モ。ノ。シ。ロ。

麻衣アサゴロモ

千名ハ集中チナハ。千名イホナの五百名などよみされど、こゝハ
チナニハモとよみてハ、平穩ならび、こゝ古寫本の傍
書ハ、名字を各と書リ、これハよりて考ふるハ、千ハ千字
の誤カカミふて、千各なるべし。千千相誤れる例集中カハあり
○歌意ハ、人ハ色々カふいひさこくとも、よーやそれハ
もさくらびて、な不織次て著むと思ふ、我機物カの白
麻衣カそとなり、ふ不思カつぎて、ついハおたむと云意と
ことへあり。○拾遺集ハ、第三句已下、おりてきむことカ
もともカのふあろきあさきぬとて載カる

右三首柿本朝臣

人誓之歌集出

椽衣ツルモノゴロモ人者ヒト。事コト無跡ナシ。曰イヒ師シ時ト從キ欲ヨリ。

服所念ホレクオモホユ

第一二句のこと、本居氏説ハ、人者ハ、者人カとあり、
下上カふなりとるカふて、ツルハ、カノ衣カハカヒトカノと訓べ
しといへり。元曆本ハ、者字皆カさてツルハ、カハカは、和名抄
深カ色カ具カ小カ。唐韻云、椽カ、櫨カ實也。和名都流カ波カ美カとありて、椽

衣ハ古賤者の服ふて。さて賤者も其服もて。やぶて椽
 衣といへるなり。○歌意ハ賤者ハ何事も事なり。と人
 の云ーときより。賤者小なりて。椽衣を著まふ。く思
 ふとなり。さてこの歌ハ貴人ハ所せき身ふて。いさゝ
 ののことも。言まげ。いひなされ。あどきれば。賤者の
 中々小事あきと。羨て。賤者小あり。こきといふことと。
 椽衣を服ふ。きといふ。あらむ。さてこれハ。賤き女
 あどふ心をかけ。こる。人目をいあることのありて
 よめる。あ
 るべー

凡爾吾之念者。下服而穢爾師
 衣乎。取而將著八方。

歌意ハ。太。このもの。おおも。下著。ふ。て。穢。垢。
 衣。ある。を。き。て。も。せ。げ。て。又。新。取。あ。げ。て。著。む。や。ハ。
 嗚呼。深く。愛。く。思。へ。バ。こ。そ。取。あ。げ。て。著。あ。れ。と。い。へ。る
 みて。これ。はい。や。き。婢。あ。ど。を。久。く。あ。れ。り。つ。く。
 みて。妻。と。あ。る。と
 き。ふ。よ。め。る。の。

紅クレナ之ノ深染コソ之ノ衣コロモ下シタ著ニ而キ上テ取ウ著ニ

者ハ事コト將ナ成サ鴨ムカモ

歌意ハ、あのみふ心をかよへしる人とのちふあら
えれてつまとせば、人の言コト痛イいひさこのむのさても
せむをべなりやと云

とことへしるな里

橡ツルハ解キ濯アラヒ衣キヌ之ノ恠アヤシクモケニ殊キホシ欲ケキ服コノ此ユフ暮カ可

聞モ

殊欲服ハケニキホシケキとよむべしケニハことさ
らふと云の如し。他所小勝異あどの字とケとよめり。
同意なり。○歌意ハ、一さび中絶する人を又おもひい
ごして堪づさくあやしくもことさら小逢まわしく
おもふ哉と云
ともとへしり

橘タチバナ之ノ島爾シマニ之シ居者ラレバ河遠カハトホミ不曝サラ縫サズ

之シ。アガシタゴロモ。吾下夜。

橘之島タチノシマハ契沖大和國橘寺のある邊なり。第二小橘之島の宮とよめると。同地なりと云り。○歌意ハ人遠くハなれさる地みゑさる故。ふ仲媒ふどとも立て。表立て。婚娶の禮をととのへさる。ふハあらて其儘妻とせる。ようとこといへるの。契沖ハ種姓高貴の人をもあひまむとおもへど。よくのまけれバ。さらぬ人を下みおもふを。ことふるふやといへり。いのヨスイトニ

寄絲

河内女カフチメ之ノ手染テソメ之ノ絲イト乎ヲ。絡反片クラカヘシカタ

絲爾イトニアレド雖有タエムト。將絕モ跡念ヤ也。

河内女カフチメハ契沖云河内國の女なり。十四小ハ大和女ヤマトメともよめり。そのほの難波女泊瀬女などの類なり。○歌意ハ片思ふてハあれど。志のまぶお思ひ絶果むと思えむやハ絶むとハおもえびく里のへえ思ひこをれびと云と。ことへあるなり

寄日本琴

伏膝玉之小琴之事無者甚幾

許吾將戀也毛

伏膝ハ五卷琴娘子歌小伊可爾安良武日能等伎爾可
母許惠之良武比等能比射乃倍和我麻久良可武とあ
りて。そこ小書記を引て云る如し。○事無者ハさ、え
ることならべの意なり。男女の中小障事ありてえ

逢ふときときふよめるなり。○甚幾許ハイトコダ
クニと訓むもさることあら。十一丁小伊田何極太
甚利心及失念戀故とあるふよらば。こゝもハナハダ
コ、ダと訓べし。同ト意なる詞と重ね云て、其深切な
るを思をせあるなり。物語書小いといさうといへる
類あり。さてあの極太甚と。子モコロゴロニ。○歌意第
一二句ハ事をいむ料の序なり。障事なくて思ふ如
く心ざらひ小相見バ。嗚呼をこなく甚り戀しく思を
むやハ
となり

ヨス ユニニ
寄弓

陸奥之吾田多良真弓著絃而。

引者吾人之吾乎事將成。

陸奥森岡の城
下ふあゝら山
と云小山あり
これ安田多良
真弓とよめる
處ふや今獅子
社と号くまみ
あるもあざい

吾田多良真弓とハ安太多良てふ地より造り出せる
真弓ふて古の名物ふそありけむ吾田多良ハ陸奥の
地名なり按ふ陸奥國安達郡ありて安達山あり安太
多良の嶺ハその山嶺と云るふやさて此郡ハもと安

らの根ふふ
鹿とよめると
思ふふよせあ
りて聞ゆ鹿と
あゝともいへ
ばふりと詠れ
る人ありと閑
田耕筆ふ云り

太多良を和銅の制ふて國郡の名を二字ふ定められ
しとき安達と書て即安太多良と唱へけむと後小字
ふよりて安太知と呼ことふなれりならむ安太多
と安達とかきて良を省けること牟射志と武藏とか
きて志を省きさる例あり此類多し志あらば安太多
良ハ後の安達なるべし十四十五小安太多良乃禰爾
布須思之能又十六美知乃久能安太多良末由美波自
伎於伎氏などよめり詞花集ふ關てゆる人小問をや
やとあるを思へば吾田多良を安達といへるハさ
らふて後小ハ真弓を杵木ノ事と思へるハさ
著絃而絃昔本小ハ絲と作ハ弓絃とのけてと云なり

○歌意ハ安太多良真弓小弦をのけて引ごとく思ふ
女と吾方小引依ごとくハ思へどもも一引依らば世
人のとみかく云とて

さこのむかとなり

南淵之細川山立檀弓束級人

ニシラエシ
ニ不所知

南淵之細川山ハ大和國十市郡なり天武天皇紀小五
年夏四月是月勅禁南淵山細川山並莫葛薪契冲云南

淵ハひろくて其中ふときてみなふち山といふも細
川山と云もありてみなふちの細川山とてふよめ
るなるべし○弓束級ハ弓束ハ和名抄小釋名云弓束
曰彌中央曰附和名由美都加とあり級字字書小絲次
第也とありてマクとよむべき義なし又マテとよむ
べき字なし或説小級ハもと纏及とありしと纏の傍
滅て及を上へつけて級とありし小やと云りさもあ
るべし兵庫寮式小凡御梓弓一張云々纏附料緑組一
條長四丈五尺とありこれハ収置料なるべしこゝ小弓
束纏といへるハ引料小にぎり小革を纏ことなり同

式小造附角裁革經附とあるこれなり○歌意ハ細川
 山小生立ころ檀木と伐取來て弓小造りてその小ぎ
 り小革を卷などよろづとへのへて事成就べく思ふ
 女とこのものとして手小入て持までハ人小志られ
 じと
 あり

寄玉

安治村。十依海。船浮。白玉採。人

所知勿。

十依海ハ或人の考小十ハ群字の畫の滅失キエころ小て。
 ムレヨルウニなるべしといへり。十縁と云詞ハあ
 然いふべ。○白玉採ハシラタマトルトと訓べし。○歌
 意ハ安治群の群て依來る海小船を浮てかゆきの
 ゆき玉を求るごとく人多く群れる中をかゆきか
 ゆきけさりのさまをなして世小志らるゝことなる
 れと外より見る人の
 いさむるなるべし

遠近ヲチヨチノイソノナカナルシラクマラヒトニシラエズシムヨシモ儀中在白玉人不知見依

鴨ガモ

歌意かくれとるところなり。

女と玉小譬へとるなるべし

海神ワタツミノテニマキモタルタマユエニイソノウラミニカツキ手纏持在玉故石浦廻潜

為鴨スルカモ

手纏持在ハ三卷テニマキモタル三十小笠朝臣金村角鹿津五丁小笠朝臣金村角鹿津ふてよめる長歌小綿津海乃手二卷四而有珠手次懸而之努ワタツミノテニマキモタルタマユエニイソノウラミニカツキ櫃ともよめり○玉故タマユエニ小ハ玉あるものとといをむるごとく俗小玉ちや小○歌意ハ海神の手小纏持賜ふ玉なればいのおしてもとり得ることハ難きと忍いあへば俗小玉ちや小いのおもしてとり得むとて儀の浦のめぐり潜カキふて潜カキまるのなとなりことふる心ハぬゝある女あるをそれふあを思ひをなつことをえせざして心をのけていのでとおもひをつくをよくなり

海神持在白玉見欲千通告潜
カヅキスルアマ
海神。持。在。白。玉。見。欲。千。通。告。潜。

千通告ハ。チ。タ。ビ。ソ。ツ。ゲ。シ。と。訓。べ。し。告。ハ。ツ。ゲ。シ。ナ。リ。
畧。解。ホ。ノ。リ。シ。ト。イ。ハ。ミ。ハ。カ。ヅ。キ。ス。ル。ア。マ。○。潜。為。海。子。ハ。仲。媒。を。と。と。へ。あ。る。な。る。べ。し。
○。歌。意。ハ。海。神。の。も。ら。さ。ま。へ。る。玉。の。見。ま。く。ほ。さ。ふ。止。こ。と。を。得。ぬ。海。子。を。あ。の。み。て。千。返。告。し。と。云。あ。ら。む。
○。此。下。小。第。一。二。の。句。底。清。沈。
有。玉。乎。と。て。同。歌。を。出。せ。り。

潜為海子雖告海神心不得所
カヅキスルアマハツグレドワタツミノコロシエ子バコエ

見不云。
ムトモイハズ

歌意ハ。仲。媒。ハ。主。小。千。返。告。ハ。志。つ。れ。ど。も。領。し。こ。る。主。の。心。底。を。あ。ら。ね。ば。あ。い。み。え。む。と。も。い。え。ぬ。と。い。へ。る。

右五首柿本朝臣
人謦之歌集出。

海底沈白玉風吹而海雖荒不

取者不止。

沈ハ。畧解小シ。ゾクハ。志づけるを約云ふて。石著る
り。次下の歌小石著玉と書さるる如く。此次小沈有玉
乎。又沈白玉又十一九小淡海海沈白玉十九廿三小藤
奈美能影成海之底清之都久石乎毛珠等曾吾見流あ
どあり。海底の石小著てあると志豆久といへり。催馬
樂小かづらきの云々白玉志づくや云々を靈異記小

ハ礒著と書り思合べし。又廿卷廿一小豆久志奈流美
豆久白玉とよみさるハ水著小て志豆久の石著る
こととも思ふべし。十八廿一小海行者美都久屍とも
見ゆ。但古今集十六哀傷歌小水の面小志豆久花の
るハ志豆久ハ陰の移る志豆久といひ言と心得さるみや
此歌のみふよりて古志豆久といひ言の意を思ひ
誤るべさて志豆久ハ十九廿三小志都久濱成式小旨
都俱旨羅多麻とあるあどふよるときハ都の言清べ
きごごとくおれども多く沈字を借用い廿卷小も美
豆久とあるあどふよりて姑濁音と定つ〇歌意ハ父
母あどのいさめころびて逢ごつき女おれどつひ小

あはざしての止り
の心ふるとへり

底清ソコキヨミシヅケル有玉乎タマヲミマクホリチ欲見タビソツゲ千遍曾告

之シカヅキスルア潜為白水郎マ

此上小第一二句かえれ

るのみふて同歌を載

大海オホウミ之水ミ底照ソコテラシ之シ石著玉シヅクタマ齊而イハヒテ

將採風莫吹行年トラムカゼナフキソ子

齊而將採イハヒテトラムハ齋祈イヒゴトして疵つけば全くあいらあ小採得
むといふなるべし○風莫吹行年ハ本居氏云行ハ所
の誤ふてカゼナフキソ子なり○歌意ハこの思ふ女
を大切ふして首尾よく事なくこのものふせむと思
ふと人のか小かくおいひさこきさど
してさふることなれといふなるむ

水底爾ミナソコニ沈シヅク白シラ玉タマ誰故心タレユエニ盡而コホツクシテ吾アガ

不念爾。モハナクニ

歌意ハ水底の玉小心をつくりてこそいよく思いつ
きこるなれ誰故小心をつくりて思ふべしやハ他小
心をつくりて思ひいせぬことなるをとかり吾不念
爾の詞小意を含めこるなり古今集小誰故小亂そ然
ふしこれならかくふとある類なり畧解小人のいひ
こふるなりとい
つげるとめをこハ女と玉小譬へこるなり○此歌
仙覺抄小濱成式を引て美那曾已弊首都俱昔羅他麻
他我由惠爾已々呂都俱昔豆和我母波那俱爾と載こ

り

世間常如是耳加結大王白玉
之緒絶樂思者。ヨノナカハツチカクノミカ。ムスビテシシラタマ
ヲノタユラクモヘバ

緒字舊本小結と作るハ誤なり今ハ元曆本小從つ○
歌意ハかこく結びてありし玉の緒なればいつまで
も絶ることハあらどと思へる小今かく絶ることを
おもへバ世間の人の約も常小のやりのこと小のみ

あるらむの。それ故ふ。こが。か。く。ち
ざり。こと。も。絶。る。なら。む。と。なり

伊勢海之白水郎之島津我鰻

玉取而後毛可戀之將繁

白水郎之島津ハ契沖島津ハむの。ありけむ伊勢の
海人の名ふや日本紀ハ海人の名をも載られり鶺鴒
を志まつ鳥といハバよくかづきまるとて鶺鴒を名と
せ海人なるべしと云りさて中山嚴水此ハ伊勢の

島津てふ海人がめづらき真珠をのづき得しと云
傳の有くなるべしさてその譬へさる意ハかの鰻玉
を取て後いよくめづらき如く逢見て後戀る情の
増らむと云意をそへさるなりと云り。畧解ハ島津ハ
ハ島の草書より誤てアマガトリ。○歌意ハ海人の島
津ハ鰻玉を採得しごとく女を吾物ハ領得らば心
をなぐさむべきふさハなくして得て後いよく戀
しく思をむのといへるなり逢見ての後の心ふくら
ぶれば昔ハ物をおも
はざりけまの謂なり

海之底奥津白玉縁乎無三常ワタノソコオキツシラタマヨシヲナミツチ

如此耳也戀度味試カクノミヤコヒワタリナム

縁乎無三ハ縁邊のなき故小の意なり。いひよらむも
づきのあきをさるとふ。歌意ハ奥つ白玉をとり得む
とおもふふとり得む縁邊のなき如く。いひよらむ爲
方のなき故小常小如此をのり戀しく思ひつゝ。月日
を經度らむ
のとなり

葦根之。懃念而結義之玉緒云アシノ子ノ子モヨモヒテムスビテシタマノヲトイハ
者人將解八方ヒトトカメヤモ

懃ハ懃の誤なり。人將解八方ハ中をさくる人あら
どといふ意ふことふ。歌意ハ深切ふ思ひて堅く結
びて玉緒の如く小深く約りていつまでも變らざ
と堅く結のいせといを。吾中をさまじげさくる
人あらむやハ嗚呼さる人
へあらどととなるべし

シラタマヲテニハマカズニハコノミニオケリ
白玉乎。手者不纏爾。匣耳。置有。

シヒトソ。タマオボラスル
之人曾玉令泳流。

テニハマカズニ。畧解小。爾ハ底の誤なり。マカズシテと云
手者不纏爾。ベきをマカズニと云ハ俗語あり。マカズ
テとあるべしと云ハ。い言ふかやう小不爾と云
り。もとのまゝ。マカズニなり。カ
も古言なり。九卷。小五。母不宿。二吾齒曾戀流。十二
卅五。小安河安寢。毛不宿爾。十三。小眠不睡爾。妹戀
丹。又。三十。人寢味。寢者不宿爾。十七。小伊母禰受爾
今日。毛之賣良爾。十三。小蛾葉之衣浴不服爾。字の誤あり

り。彼、卷小。など見えあるを思ふべし。○歌意ハ、白玉と
云べし。とりあげハ志つれど、手玉小なしてまかぢ小箱小入
てのみ、大切小齋きおきて、つい小いさづら小、その玉
を、又水中小捨て、おぼらしめつると同しく、下小ハ契
置おぼらあふこともなく、あらわれて妻ともさごめ
ぢ、つい小はいさづら小なりて、この物ともえせざる
人を、あさよりいとを
しみて、よめるあるべし

テニマキフルス。タマモガ
照左豆我。手爾纏古須。玉毛欲

得^モ其^{ソノ}緒^ヲ者^ハ替^カ而^テ吾^ア玉^ガ爾^タ將^マ爲^ニ。

照左豆ハ未詳ならぬ契沖^テルハものをむむること
バサツハ薩男^{サツラ}ありと云り又畧解^ヲ岡部氏の説を
云よしいべれど今按^ルこれハ誤字あるべしワタツ
コノなどあるべき所なり猶考^ベ一〇歌意ハ某の手
玉小^シて久しく纏^ルふる一とて今ハその玉を用
ふきもの小^シ思^フ手^ヲをふりことものなあれの
らバ其^ノ緒^ヲを貫^ス替^フてこの手玉小^シせむことなりこと
る意ハ手小^シまきふるものとハ女ともする人あるふい

めで其^ノ女^ヲとふるき物小^シて思^フひきてよのしさらバ
この妻小^シせむこと云^フなり其^ノ緒^ヲとハ先^ニの夫^ヲと多^ク
ふるなり十六小^シある人のむめをとこ小^シ捨^テられて
後^ニある人小^シむのへられけるをあらざして又ある人
のえむとおもひて女のおやのもとへよみておくれ
了^ル歌小^シ真^ニ玉^ヲ者^ハ緒^ヲ絶^ス爲^シ爾^ノ伎^ヲ登^ル聞^ク之^ノ故^ヲ爾^ノ其^ノ緒^ヲ復^ス貫^ス吾^ノ玉^ヲ
爾^ノ將^ヲ爲^シ答^フ歌^ハ白^ク玉^ノ之^ノ緒^ヲ絶^ス者^ハ信^ズ雖^シ然^レ其^ノ緒^ヲ又^テ貫^ス人^ヲ
持^テ去^リ家^ニ里^ニこれ小^シてことへの意あきらかななり

秋^{アキ}風^{カゼ}者^ハ繼^{ツギ}而^テ莫^ク吹^ク海^ノ底^ノ奥^ニ在^ル玉^ヲ

乎。手。纏。左。右。二。

歌意かくれゑるところなし。得のてなる女を玉小比へ。父母などのころびを。風ふあといふるなるべし

ヨスママニ
寄山

磐。疊。恐。山。常。知。管。毛。吾。者。戀。香。

同等不有爾。

磐疊ハイハタ。ムと訓べし。イハダ。ム。と。磐と疊み
重ねさる山ハ。物おそろしく見ゆるものなれば。恐山
とつゞけさる。六卷。丁。廿ニ。小。奥山之磐爾羅生恐毛問賜
鴨念不堪國とあり。思合べし。○恐山ハ。さ。の。〜。て物
おそろしく山を。おふけふ。こと。及。た。れ。ぬ。品。貴。人。小
ことへさり。○同等不有爾ハ。舊本。小。ハ。ト。モ。ナ。ラ。ナ。ソ
へ。ラ。ナ。ク。ニ。と。よ。め。る。よ。ろ。〜。同。等。小。な。そ。ら。へ。い。ふ。べ
き品の人小あらぬことなるをの意なり。伊勢物語小
おふなく。思ひいさへ。なく。高き。賤。〜。さ。く
る。〜。の。り。け。里。と。あり。○歌意ハ。多。く。の。磐。石。と。疊。み。重

ねてさびしく物おそろしき山の如く品貴き人小て
吾儕と同等ふなそらへいふべき人小あらざされば
恐れ憚りてあるべきことなるをさる思

絶ルことを得ズて戀シく思ふ哉となり

石イハ金ガ子之ノ凝コ木バ敷シク山ヤマ爾ニ入イリ始シメ而テ山ヤマ

名ナ付ツカ染シ出シ不イ勝テ鴨カモ

石イハ金ガ子ハ磐イハ之ガ子根ノなり○凝コ木バ敷シクハ凝コ木バハ木キ凝コとありけ
むと下上小誤れるの。コ。バ。シク。の言ハ既く云り○歌

意ハ磐イハ根ノの疊重りて凝コ々バく物おそろしき山小入
始てよりその山ノものおそろしければ出去むとい
思へどもなや山ノ馴ナツ著カしき故小他所小出シ去ル小得
堪ぬ哉となり契冲云此歌も同等ふらぬ人小いひそ
めて人のさめ身のさめよくもあらざなど思ふこと
あれどえおもひやまぬと山なつるのみ出のぬると
へあとふ

るなり

佐サ保ホ山ヤマ乎ヲ於ホ凡ニ爾ミ見シ之カ鹿ド跡イ今マ

見者山夏香思母風吹莫勤。

ミレバ。ヤマナツカカシモカゼフクナユメ
於凡爾見之鹿跡ハ、おほよそ小見てありしのだ、お
り。オホニハ一通り。歌意ハ今までハ佐保山を一通
の山と思ひて、おほよそ小見てありしのだ。其山小分
入てよく見れば、花紅葉ふどもこと小まぐれて、さて
もふつろしやゆめく此山小風吹荒て、花紅葉ふども
散し亂まふとなり。契冲云、これハ人小なる、まゝ小
いとぶふのくおもひまさる小あといへり。かぜふく
なゆめハ、佐保山となつろしむハ、花紅葉ふよりてあ

れバ思ふ中とさくる人と風ふことへて吹ふと云ハ
さふることとをさふと云なり。第三小家持昔許曾外爾
モミシカワギモコガオクツキトモハハシキサホヤマワガオホミシア
毛見之加我妹子之奥柳常念者波之吉佐寶山吾王天
シラサムトオモハチバオホニソミケルワヅカソヤマ
所知牟登不思者於保爾曾見谿流和豆香蘇麻山とあ
り

奥山之於石蘿生恐常思情乎。

何如裳勢武。

本句ハ此上の歌小六卷の歌を引るが如く○歌意ハ
かつのいき人なれば立入て親交むとハ思へど品貴
き人おれば同等の人の如く立交りて親おむハ恐あ
れば憚り遠ざかりてあるべきおれどえ思ひ放さざ
てかくかつのいき思ふ心といのお
のせむさても爲む方おしやとなり

思勝痛文爲便無玉手次雲飛

山仁吾印結

思勝ハ舊本ハ思勝とありそれハオモヒ今
ハ一本おかくあるお從つオモヒカテと訓べし思不
得といえむお如し思不得堪ぢの意なり○雲飛山ハ
畝傍山なり後紀一卷小も雲飛宿禰淨永とあり○歌
意ハ峻く峻くき山なれば恐憚りてあるべしとハ知
なめらもおほ思不得堪ぢ甚も爲む方のおき故小畝
傍の峻くき山小分入て標を結つるとなり契冲云り
ねび山小おめむおふとハおよびおき人をいのお
てのなとおもふを高く大きな山を勝重さしてわ
の物と領せむとをる小よをるなり夫木集小尋來て

今を志めゆふ玉手きき雲居る山の初さくら花と
あるハ今の歌をありくよみてとりこるあるべし

寄木

アマクモノ。タナビク。ヤマノコモリ。タル。アガシタゴロコノ。ハシリケム。
天雲。棚引山。隱在吾志。木葉知。

吾志ハ本居氏志ハ下心二字の誤て一字小なりある
なりといへり。アガシタゴロコノとよむべし。○木葉知
知の下。一本小良武の二字あれど此歌の書ハ二卷廿
二。小鳥翅成有我欲比管見良目杼母人社不知松者知

良武三卷廿二。小真木葉乃之奈布勢能山之奴波受而
吾超去者木葉知家武これら小合せて見べし。十一
丁。小我背兒爾吾戀居者吾屋戸之草佐倍思浦乾來と
もありの歌意第一二句ハ序小て山の雲小隱るとい
ひのけこるなりさてかく人目と志のひ隠れて色小
あらをさぬ心と木葉ハそれと知けむ小や其さまあ
らえれと

りとなり

ミレドアカヌヒトクニヤマノキノハラシシタノコロニナ
雖見不飽人國山木葉己心名

ツカシモモフ
著念。

ヒトクニヤマ
人國山の契沖云。大和なり。下小人く小山のあきづ野
のとよみされば。吉野小あるなるべし。己心ハ。これ
も下心の誤小て。シタノコ。ロニなるべし。と木居氏
云り。歌意ハ。みれどもみれども見あぬ。人國山の
木葉のりるる。き小見つきて。心の裏小のみ馴著く
思ふそといへる。小て。女を木葉小とへるなるべ
し。

右二首。柿本朝臣

人誓之歌集出。

シラスゲノマヌノハリハラ。ココロヨモオモ
白管之真野乃榛原心從毛不

ハヌキミガ。コロモニスリツ
念君之衣爾摺。

コロロヨモ
心從毛云々ハ。心裏よりも云々と云ぶごとし。毛ハ表
ハさるもの小て。裏よりも眞實小思ふといふなり。さ
れバ此ハ。自我心裏よりもといふなり。○歌意ハ。自我
心裏よりも。眞實小あの君が衣小摺れむとハ思ハざ

りいふ思ハぢもその君の衣小摺れつるとなり女の
自を榛小ことへあるあるべしもとより思ひよらぬ
人小さりぢのこきよありて

得られしる女のよめる小や

真木柱。作蘇麻人。伊左佐目丹。

借廬之爲跡。造計米八方。

伊左佐目丹ハ契沖云いさゝのなりかりそめ小とい
ふも心ハ通ぜり古今集ふもいさゝめ小時まつま小

そ日ハへぬるこゝろをせとびみゆるものこのらとあ
り〇歌意ハそま人のつくれるまきえしらのみや木
のゑめふしていさゝのあるかりはあどの柱のこめ
ふとおもひあてつくりけむやハそのごとくこの
おもひそめていひ出ることものなぐさふし
る類小ハあらぢ。嗚呼末とほく借老のちぢりごとげ
むとてこそいひいでる
るあれといふなるべし

向峯爾。立有桃樹。成哉等。人曾

耳言爲汝情勤。

成哉等の上元曆本小ハ將字ありてナラムヤトとよ
めり○耳言ハさ、やくことなり。阿佛が乳母のふみ
見あせて、人のあまねくあらぬとのことりちこ
らひ、そ、やあどさ、やいて、おのづらふそやあど
とふ人お、土左日記異本小舟君のからく拵り出して、
ふと思へる事をえ、誣へとて、さ、めきてやみぬ。
落窪物語小四の君の御めのと、おのとのふりける人
を、知よりけるをよるこび給て、さ、めきさこき給り
て、ふみやらせ給ふめりといへば云々とあるハ、榮花
物語小、そ、き立て、袂衣小、そ、きありき給ふなどい
へる、そ、く小同言ふて、さ、めごと、云も、さ、めき
こ、とハ別ふるふや。

ごとあるべし。長恨歌源氏物語若菜上小あやしくり
ちふのこまへある御さ、めきごとどものおのづあ
らひろごりて云々とあり。又靈異記小、嗟佐々支豆と
あると見れば佐々久ともいへる小や、も、佐々女支
豆とありしを脱せるの○汝情勤ハ勤ハ忌といふと
同言ふて、なむおの心思つ、みて、人小あらる、こ
となあれといふなり○歌意第一二句ハ、桃子の成と
いひつづけくる序なり。夫妻の約契成就ぬるやいの
ふと、世人のさ、やきていひ、そ、よくせむハあらえ
れぬべし。汝が心思つ、みて、人小あらる、ことを

かれと

なり

足乳根乃。母之其業。桑尚願者。

衣爾著常云物乎。

母之其業ハハ。ガソノナル。と訓べ。ナル。とハ。何事
小まれ。その産業オリハヒをさる。と云詞なり。業をナリ。とよむ。
即ナル。の體言とされるなり。廿卷丁廿六小佐伎牟理爾
多々牟佐和伎爾伊敝能伊毛何柰流敝伎已等乎伊波

須伎奴可母。とある。小ても知べ。畧解ワザノハハ。ガソノ

と云るハ。いみり。○桑尚契冲云。桑の下小子の字の落
きいぶことなり。○桑尚契冲云。桑の下小子の字の落
ころあるべし。寄木と云こと小叶をたと云べけれど。

此集の題ハ。のあく小題をを意てよむ。小ハ。かをりて。
おろやりなること集中を案むべし。のふこの桑をを

みてそごてバ。桑子といふ。小て。寄木と云心ありとい
へり。さもあるべし。蠶をかふことハ。女のこごあるの。

中おも母親ハ。その夫その子おど小衣小なして著せ
むぶこめ小をることなれば。もえらとある方小つき

て。母之其業ハハガソノナルといへるなり。十二丁十六小。蚕乳根之母

我養蚕乃眉隱馬聲蜂音石花蜘蛛荒鹿異母二不相而
ガカフコノマヨモリイイカクモアルカイモニアハズテ
 とあるも同ドの歌意ハ母親のその夫やその子小衣
 小衣して著せむのこめ小衣をつくしてそのあござ
 小衣る蠶小てさへいので吾衣小して著せまへと
 ねのへバゆるして吾小著れば吾物として著ると
 いふものなるを人の女子ともいので吾小得しめあ
 まへとひよをらふねのふとき小ハゆるをまどき小
 あらねバその母親小ねのひいて見をやとなるべし
 波之吉也思吾家乃毛桃本繁
ハシキヤシシワギノケモトシゲク

花耳開而不成在目八方
ハナノミサキテナラガラメヤモ

モトシゲク
 本繁ハ本繁といえむの如し○歌意本句ハ序小てあ
 ぐりをへ小花々くくりるをしく約チキれるのみ小て鳴
 呼つひ小實小成むしてあらむやとなり契冲云約
 たることのみあまて實なるらむやとあふなるなり

向岡之若楓木下枝取花待伊
ムカツヲノワカカツランキシヅエトリハナマツイ

間爾嘆鶴鴨
マニナゲキツルカモ

若楓木ハ、楓の若木ふるべし。楓ハ加都良なり。カカツラ
ら品物解小委云り。○花待伊間爾ハ、伊ハ助辭小て花
待間小なり。さてこの伊の言ハ、待の下小つく伊なり。
故花待伊と姑絶心持あるべし。ハナマツイ間小つけて、伊間イマ十卷
ハ小青柳之絲乃細紗春風爾不亂伊間爾令視子裳欲
得とあり。この類の伊の助辭續紀宣命小こと小多し
○歌意ハ、むらひの岡の楓の若木の、いつの生樹て花
咲むと、下枝を取て待間の、嗚呼さても待遠やと歎息
きつる哉
となり

16
125
96

